今月の特集

# 我らの『ふるさと見聞録』

## ―見て、聞いて、録して、そして―

ふるさと見聞録は、これからの南国市を背負っていく人材の育成事業として、平成二年度に始められたもので、今年度が最終。

この三年間にこの事業を活用したのは、七グループにのぼります。

今回は昨年度と今年度に参加した三グループに、見聞録の体験談とこの体験をどう生かしていくか聞きました。

### バリ島親善交流の旅

行ったのはAS奈路倶楽部（あすなろ）の21人（男性17人、女性4人）。

行った所はインドネシアのバリ島。

平成5年1月13日～18Eまでの日程で、スポーツ交流と稲作農業の原点への旅が目的。

参加者の中から、長曾我部良親さん・川村八恵さんに聞きました。

### バリ島でふるさと再発見

**―サッカー交流は大成功でしたね。**

**長曾我部** さすが、サッカーは世界の共通語。グラウンド状態はデコボコ、カチンカチンで最悪、ラインもないなかでもすばらしい試合ができました。

**―バリ島での体験で一番感じたことは。**

**川村** 生き方・くらし方には感じ入るものがあります。少しばかり収入が少なくても、すばらしい生活があるなって感じで。例えば、バリ島では農薬を使っていないそうです。少しでも収益をあげるため農薬を多く使う日本の農業について考えさせられました。

しかも、小規模農業で家族が労働力です。規模拡大による農業生き残りがいわれている中で、地理的にも大規模化が難しい中山間地の奈路と似ているのではないか。何かヒントが得られるのではないかと期待して行ったわけです。

**長曾我部** ゆったりと生活していたのにはあこがれました。趣味を生かして生活しているといった印象です。あくせくしていないで済む。物質的には日本が豊でしょうが、精神的な豊かさではかなわないと思いました。

**―見聞録の成果は、地域おこしにどうつながっていくのでしょう。**

**川村** 新聞などでは、スポーツ交流と観光面が大きく報道されましたが、本当は、バリ島を通して明日の奈路を考えようということです。

バリ島の風景は棚田が連なり、まるで奈路そのもの。ふるさと再発見の旅でした。近代化のなかで切り捨ててきたものについて考えさせられました。

**長曾我部** バリ島は農業に観光をミックスし、工芸品の製作などで収入を得て生活しています。その点、奈路とは違いますが、取り入れることができる面もあると感じました。

**―睡眠を促進させる食べ物があって、ぜひとも移植させたいとか。**

**川村** カンコンという野菜です。農路を通じて種を取り寄せることができないか話し合っています。栽培を軌道に乗せれば、睡眠も十分に満たすことのできない現代人にピッタリじゃないでしょうか。

**長曾我部** 寒さにどれだけ強いか不明な点もありますが、試してみる価値はありそうです。

**―コンサートを開いたり、今回の取り組みなど、奈路には活気がありますね。**

**川村** 三百人ほどの人口に二十～三十歳代は三十人ほど。男性はほとんどがサッカークラブに属しており、まとまりは抜群。最近、人口の流出は止まっています。

**長曾我部** 奈路から出ていった人で、Uターンしたいという人の話もぼつぼつ聞くようになりました。高知市へも三十分あれば行けます。通勤距離ですよ。小学校は複式学級ですが、まとまりが良くてかえってよい面が多いと思いますよ。

**―中山間地の有効利用についていわれていますが、住民の一人としてどう考えていますか。**

**川村** 一挙に開発され、住民の心のつながりが失われるような開発には反対です。奈路の自然が好きで住んでみたい人は歓迎しますが。

**長曾我部** 大量のコンクリートを使って、山を削り河川を改修するほうがよいと考えている人もいるようですが、このクラブのメンバーの多くは自然を壊すような開発や工法には否定的です。今回の旅でその思いを強くしました。

サッカー交流をはじめ楽しいことの多かった旅で、本当に行ってよかったと思っています。

ヤシの林で。地元チームと

川村さん

長曾我部さん

### 地方自治体視察紀行

行ったのは南国市役所職員の3人。

ひとりは、市外在住で助成の対象にはならずに自費参加でした。

行った所は島根県出雲市と宮城県気仙沼市を、平成4年1月24日～27日までの日程で。

参加者の高木正平さん・沢本順一さん・崎山雅子さんに聞きました。

### 地方の時代のリーダーを求めて

**―出雲市には、どうした動機で。**

**高木** 出雲市は岩国哲人市長の就任以来、全国の注目のまと。魅力のある自治体にどうすればよいか、日ごろ話し合っていた三人が、視察をということになりました。

**沢本** 南国市と同じような田園地であるにもかかわらず、出雲ドームやスーパーマーケットでの土・日の行政サービスの開始、医療福祉カードの創設など、従来の地方自治にはない新しい行政スタイルが新鮮で、ぜひ見てきたいと思ったわけです。

それも、市民からの要望があって始めたのではなく、行政が市民のニーズを先取りして始めた点がすばらしい。

日曜日に住民票がとれるなんて、市民は思ってもいなかったでしょう。しかも、スーパーマーケットに窓口があるなんて。

少ない経費で最大の行政効果をあげる。こうした発想が必要だと感じました。

**崎山** また、これからは行政にも女性のセンスが不可欠で、積極的に登用もすると人事課長も言っていました。

沢本さん

スーパーマーケットでの工・巳の窓口サービスを視察

市長も女子職員と定期的に昼食会を行い、意見交換を積極的にしていると聞きました。

**―職員の動揺も大変だったと聞いていますが。**

**高木** 市長から示されたプランを最初見たときには大変だったそうです。そのため、市長の考え方を理解するため、市長の著書『出雲からの挑戦』や『郷の論理』を職員の一部が読んだそうですよ。

高木さん

**崎山** 『行政は最大のサービス産業である』を理念として掲げ、市民から全面的に支援されているため、職員も苦労が多いわけですが、従来の地方自治のあり方に疑問を持っている若い職員からは好意的なようです。

**沢本** 地方の時代という言葉だけ先行し、実際の地方自治とは程遠い現状にやりきれない思いをしている職員も多くいます。

そうした気持ちに、よいアイデアを出せば、採用も従わざるをえないといった市長の考えはマッチしたのだと思います。市役所こそ行政の最先端だというわけです。

事実、学校や公民館では木造建築を積極的に行い、国も木造建築について補助事業として認めるようになったと聞いています。また、保健医療の分野でも、そのようです。

市長の持論が、日本は「紙と木の文化の国」であるとのことで、日本的な建築様式を重視したまちづくりを行っているようです。また、全国で初めて木の診断医、耐医制度を作っています。

六十五億もかけた木造のドームが必要かといった疑問もあるそうですが、全般的には、自慢できるものが多くなったと市民からは好評であると聞いています。

**―気仙沼には、活発な地域おこしグループがあるとか。**

**高木** 平成二年度に国土庁長官賞を受賞した「市民フォーラムを進める会」がそれです。

**崎山** 出雲とは逆で、始まりは約十五年ほど前に、旧態依然とした行政に疑問を持った若手職員の勉強会からだったそうです。

崎山さん

背景には、漁業不振で落ちこんでいくばかりの危機意識があったそうで、そのうちに若手経営者なども参加しはじめたそうです。住民が何とかせねばといった危機感が運動を盛り上げ、行政を動かしたといえますね。

**沢本** 昭和五十九年から、月一回、水産・漁業などをテーマに地元の有識者だけでなく、大学教授やマスコミ関係者をパネラーに迎え、活発な討論をしているそうで、毎回百人ほどの市民が参加しているのには驚きました。

**高木** 昭和六十年には、全国では初めてという、市民の手作りの「全国水産地域シンポジウム」が開かれ、全国から千人を越える人々が集まったそうです。

気仙沼を世界一の港町にしていこうという市民の熱意を感じました。

## サンゴ礁と太陽の土地へ

行ったのは南国市商工会青年部の6人。行った所はオーストラリアのケアンズ。平成5年1月14日～19日の日程で、南国市と同じ空港を有しているケアンズが、どの様にして今のような観光客が多く来る都市として発展したのかを知るのが目的。参加者の中から、坂本好正さん・山本康博さんに聞きました。

### 質よ！あれがケアンズだ

**―ケアンズはいかがでしたか。**

**坂本** 空港をうまく生かし、成功したところとしてケアンズを選んだのです。空港が国際空港になったのが、約六年前。それまで五万人の人口が一挙に十万人に。急激な人口増にかかわらず、かちっとした都市計画ができています。道幅四十㍍の道路が整備され、商店の前まで車が直接乗り入れできます。その周囲が住宅地になっています。

南国情緒にあふれるケアンズの町並み

**山本** 緑が本当に豊かだなと、町並みをみて感じました。南国市も太陽に恵まれた同じ土地柄。樹木をたくさん植えたらどうでしょう。これなら個人や地域の力で可能ですし、意識的に南国の明るいイメージを作り、PRすることが必要だと感じました。ケアンズでは、建物のなかまで緑があふれていました。

**―人口十万人の副県都構想のケアンズ版ですね。**

**坂本** ケアンズにはグレート・バリア・リーフという世界最大のサンゴ礁という観光資源があり、国際空港になって観光客がどっと来るようになったのが、ポイントです。

**山本** 従来の商店街のほかに、観光客のために、ロ心点からだと歩いて五分～十分くらいで見てまわれる大きさのニュータクンを作っています。ちょうど後免の町くらいの大きさですね。観光客はそこでショッピングを楽しみます。

山本さん

**―今回の見聞録の目的は、空港・高速道・新港などを通じて、ヒト・もの・情報などの物流を活かして南国市の商工業がどうしたら発展できるかと聞いていますが。**

**坂本** 南国市は空港があるにもかかわらず、通過点でしかありません。空港に降り立った観光客は県内の東西の観光地に散っていきます。これは商工業の明日を担う私たちにとってはとても残念です。

ケアンズのようなサンゴ礁は無理ですが、せめて一泊くらいの観光客を集められる施設があればと思います。温暖な気候と広い平野がある南国市にできないことじゃないと思いますが。

坂本さん

ディズニーランドやハウステンボスのようなものがあれば、それで国際空港にでもなれば、さらに海外からも人がやってきます。

**山本** ケアンズも、国際空港にするときには観光客に対する市場調査もきちんとしていたようです。主なターゲットは日本からの観光客らしかったのですがね。きちんとした戦略を立てていたのには感心しました。

しかも、観光だけといった産業構造では弱いので、空港を活かした物流の基地として、運輸産業にも力を入れ始めたと聞いています。

先を読んだ投資もすでにされていますよ。

ケアンズ市の商工会のメンバーと

**―地方拠点都市の指定を受け、地方拠点都市としての都市機能の整備が進められますが、どう考えられますか。**

**坂本** 観光面から見ると、企業誘致はプラスの要素は少ないでしょうね。しかし、屋月の確保にもなりますし、観光だけでは産業構造が弱いのは目に見えています。開発にも自然に配慮し、観光とも共存できるものを考えてほしいですね。

ケアンズで感じたのですが、すごく自然を大切にしています。同行したメンバーに建設業を営んでいる人がいたのですが、建築物が自然とマッチしているのに感心していました。南国市には幸い多くの自然が残っています。

**山本** 仕事はコンピュータのソフト関係ですが、インター・チェンジ付近にオフィス・アルカディア構想がありますね。ソフト産業は事業所がどこにあるのか、地理的な条件は大きな問題ではありません。大切なのは、精神的にストレスがかかりますので自然が豊かなことが条件ですね。その点、適地だと思います。

ただ今回の目的には工業は含んでいなかったものですから、工業関係者には申し訳ないですが、あまり言うことがなくて。（笑い）